

第26回

日教組 人権教育実践交流集会 in 徳島

11月12日(土)・13(日)の両日、徳島県で開催された人権教育交流集会は、全国各地から約160名が参加しました。

1日目 全体会・分科会

午前中の全体会では開会行事に続いて、現地報告と四国朝鮮初中級学校の子どもたちによる歌と踊りの発表がありました。午後からは4つの分科会に分かれ、レポート報告がされました。

全体会の現地報告では徳島県教組襲撃事件が取り上げられ、事件のあらましや裁判についての報告がされました。全体会に参加して、教員自身が学習を重ねることが、不当な差別や人権侵害に対して学校や地域で何をどう進めるべきかを考えていく第一歩だと感じました。

午後の「インクルーシブ教育」の分科会では、2つの実践報告をもとに、特別支援学級の在り方や各地域の特別支援教育の状況や通常学級での支援について意見が交わされました。



分科会 (第4分科会インクルーシブ教育)



全体会 (現地報告)



2日目 フィールドワーク



フィールドワーク (藍染め体験)

徳島市内のフィールドワークは「芝原箱廻し」「藍染体験」「講演と高校生からのメッセージ」の3つのコースに分かれて行われました。「藍染体験」では、藍染めについて研究されている方から、吉野川の氾濫や、税に苦しめられた民衆が藍を栽培し、現在は伝統産業として広く知られるようになったお話をお聞きしました。その後、藍染めを体験しましたが、何度も染めを繰り返し徐々に色濃く染まっていく様子は、いろいろな苦難を乗り越えた民衆の思いと重なるものがありました。



感想

2日間を通して、他県から参加された先生方と話をすることで、様々な考え方や取り組みがあることを知りました。子どもたちの将来にとって必要な力はどうしたらつけられるのかということを考えるきっかけとなりました。